



おみゆちゃんと恋しよう

成人向
18禁
FOR ADULT ONLY

「俺は家庭教師をしていて、次の学校のテストで白点を取ったらご褒美をあげると教え子と約束をした」

その結果、今現在
こういう状況に
なっている

うんっ…

いいよ…

それじゃ…
入れるよ？

ハッ…!!

どうして「を」を「や」に
なったのか……
良かったら、聞いて
欲しい

○登場人物とか○

・名前：みゆちゃん・

- ・年齢：指十本で数えられないこともないかもしれないレベル
- ・すりーさいず：べたん！すっとな！ふんわり！
- ・好きなもの：もっふもっふしたも (犬とかめいぐるみとか毛布とか)
- ・嫌いなもの：にがいもの (野菜とか)
- ・性の目覚めのきっかけ：母親が買った雑誌、「女性自身」を読んで
- ・好きな異性のタイプ：やさしいひと
- ・嫌いな異性のタイプ：歳に近い男子全般 (単なる年上趣味)

家庭教師の先生に絶賛片想い中
あまり人を疑うということを知らず、割と何でも真に受ける
もっぱら童貞キラーで一部で有名な
金髪ツインテールの、学校の友達のお姉さんから
「男をオとすときのアドバイス」を指南されたとき
目をキラキラさせながらその話を聞いていた

「今度の学校のテストで百点取ったら何でもひとつ言うことを聞く」
という、家庭教師の先生との約束を交わし猛勉強に励み、成し遂げた

基本的には純真無垢であるため
ビッチなお姉さんから与えられた偏った知識のみを武器に
今回の告白ミッションに挑む

あと細かい話ではあるが、トイレで小をしたとき
三回以上拭く程度には綺麗好き



・あなた：家庭教師の先生・

詳細なプロフィールなど不要だと思うので割愛

好きな女性のタイプはどちらかといえばロリコン寄りの年下属性持ち
みゆちゃんは正直ドストライクだが、家庭教師という立場もあって
決して手を出してはならないと言い聞かせているし、
何よりそんな漫画みたいな展開が実際に起こるわけがないと
遠観すらしていた

←のページまでは

「今度の学校のテストで百点を取ったら何でもひとつ言うことを聞く」
というのは決して下心があって交わした約束ではなかった

その程度にはみゆちゃんのことを大事にしようと思っていた
心優しきロリコン



うそつき!

せんせーの
うそつき!!

百点取ったらボクと
えっちしてくれる
って言ったじゃん!

いや...確かに
「何でもひとつ言うこと
聞く」とは言ったよ?

百点ふたつ取ったから
片方えっちで片方そっち
でもいいのよ?

いやいやいやいや
いやいやいや...

俺はこういうのを
おねだりされるものだ...





んんん

わかってるもんっ

カッパッ

待っ……！
それどっいうことか
分かってんの！？

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

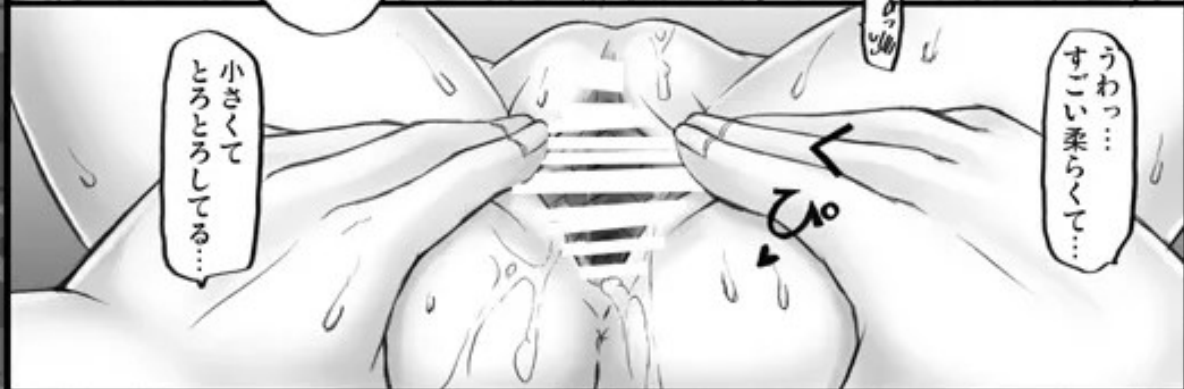
いつもこうやって
せんせーのこと
考えながら

せんせーの
ことが好きなのっ！

ひんびひんび
しちゃってる
くらっ











!!

んん

ご...ごめんっ!

せんせえ...

かわいいよう...

ご...ごめんっ!
突然あんなの見せられて
どうかしてた
っていうかっ...!

大人をからかったら
大変なことになるって
教えたかっただけで...!

し...



からかって
ないもんっ…!

ボクがせんせーのこと
だいすきなのは本当だし

かっ
すきだから優しく
してほしいんだもんっ…

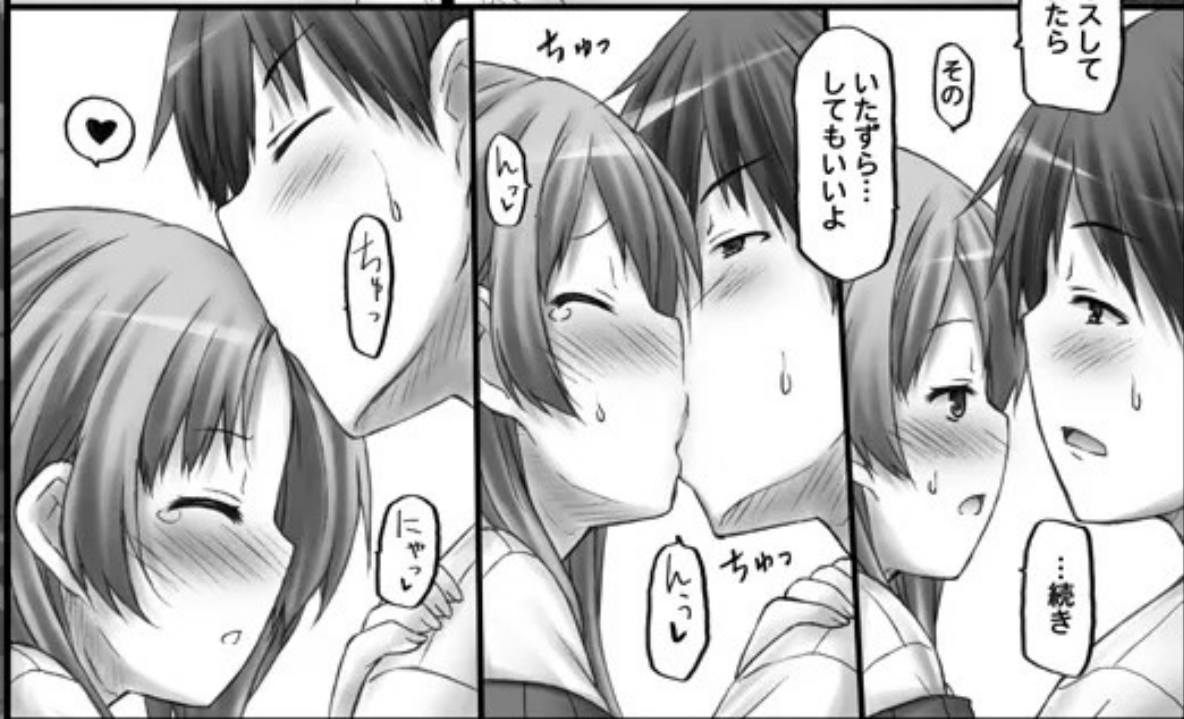


俺だって

みゆちゃんのこと
好きだし…

ずっと

こうしたいって思ってた
悪い大人なんだよ…



…キスして
くれたら

その

いたすら…
してもいいよ

ちゅっ

んっ

ちゅっ

ニヤッ

んっ

ちゅっ

…続き







あー

せんせー

あー

だっすき

あー

だっすき

ふっ

あー

アッ

アッ

アッ

あー

あー

あー

あー

あー

小さくてきつきつで
半分も入らなくて
すくもどかしいのに

すくすく熱くて
死ぬほど
気持ちいい……!

俺も好きだよっ
みゆちゃん
大好きだ!

あー



あーあ

これはダメだ...
こんなことを知って
しまったら

ふまっ

あーあ

あーあ

あーあ

あーあ

あーあ

はまっ

もう大人の恋愛なんて
出来るわけがない...!

あーあ

あーあ
あーあ
あーあ

あーあ







★ぼくのかんがえた○学生シリーズ★

みゆちゃんは元々、このシリーズの第三弾として
生み出したものだったりします。
いい感じのデザインにまともじゃなかったら下段二人の
どっちかを今回の本に起用するつもりだったのですが
自分的にはみゆちゃんが結構いい感じに仕上がった感
があったので。

なんとなくストーリーを考えたとき、
左下はそこはかとなくシリアスな路線に、
右下は前回のピッチ本と同じ路線しか思い
浮かびませんでした。

仮にこの中でどの子が好きかという
アンケートを採ったらどんな結果になるのか、
若干興味があります。
以前描いていた来世シリーズより
見た目のキャラ分けは大きくありませんが……



★穴のあいたくつした★

あんよの小指を執拗に責め続ける本も
実は考えていたのですが……
それだけで本一冊分も話を続けられる
気がしなかったので断念しました。
脳内ネームに換算して6Pぐらいまで
は行けたのですが。

まだまだ自分にはハードルの高い領域
だったようです。



★うさねこ百合★

自分内部での百合要員
として。
本として出すには、以前
描いていたQMA本で
全て出し尽くした感が
あり、引き出しの
チャージにはまだ時間か
かりそうです……
3P路線でもいい気が
しなくもないですけど。
それにしても狭いな……



●あしがき●

ようこそ右のページから。ぶっちゃけページが余ったので全力であしがきを書こうと思います。これからこのサイズのフォントで埋めなければならないのかと考えると戦慄が走ります。それと同時に、わくわくすらしています。一体何を書けばよいのかと。むしろ何かしらラフでもいいからおまけ絵を用意した方が楽なんじゃないかと。そんな本音を、冒頭三行目にして正直に告白しなければならぬほどにネタが無いということをあらかじめお伝えしておきつづ、まずはロリコンについて語りましょうか。もう散々当サークルのWEBサイトの日記上で語り尽くした感もありますが、何せまだ四行目です。戦はまだ始まったばかり。で、サイトの日記では幼い少女に手を出してしまうことについて、その行為の倫理的な是非はともかく、精神論的な正統化論を書き殴り続けた記憶があります。この本においてもその考え・思想に一切の変わりはありません、むしろ自分にとってより具体的な形としてのアンサーを漫画上に表現してみたつもりです。日記では男性側の精神面、「少女が成長し、大人になるにつれ、環境の変化も伴いどんどん出会いが増え、行き、年代との恋愛に発展してしまう恐怖と焦燥」について書きました。「他の男に取られてしまうぐらいならいっそ……」という、要約してしまえばありふれた感情ですが、その対象が歳の離れた少女ということであれば尚更。普通の恋愛なら告白しておしまい。その結果は置いておくとして、でも、相手が法的に引っかかってしまうような少女であったならば、それは決して低いハードルではありません。きっと普通の恋愛よりも多くの葛藤に苛まれることなのでしょう。少女が大人になるまで待ったとして、自分が好きだった彼女がそこにいるとは限りません。子供の成長は早いものです。たった数ヶ月顔を合わせないというだけで、まるで別人のように成長してしまっているかもしれないのです（主に精神面的な意味で）。他にも様々な葛藤があることなのでしょう。ですが、これが「少女に恋をした罪」なのです。禁忌であるが故に、その罪は心を苛むのです。これは男性側に限った話では無いと思います。少女の方も、本気で大人の男性を好きになったとして、きっと同じような葛藤に悩まされることなのでしょう。相手は大人という、子供にとっては遠く憧れる存在。男性だけでなく同性、大人の女性という存在を非常に魅力的だと感じており、そんな絶対に敵うわけがない畏怖の象徴渦巻く大人の社会において、好きな男性が惹かれていかないはずがない、と普通は考えるでしょう。相手が生粋のロリコンだと知っているのであればまた話は変わってきそうですが、なかなかそのへんを自覚して行動している少女はそうそういないのではないかと思います……最近はどうでもないのでしょうか……もしそうだとしたら恐ろしい世の中になったものですね。それはさておき。以上の前提を踏まえ、やはり少女も少女なりに焦るわけですから、でもこの恋を成就させるには、あまりにも経験が足りなさすぎる。というか、このような禁忌的な恋愛を経験している知人など普通は周りにはいません。奇跡的に体験談やアドバイスを得ることが出来たとしても、きっとその道程は過酷。話を聞いただけで実践出来るものではないであろうことは容易に想像出来ます。この本では、そんな恋する少女の悩み・葛藤の解決策としてのひとつのパターンとしても描いてみたつもりです。そしてまだこのページの半分も書いていないことに気づいて失笑しそうなほどに驚かされているわけですが、え、なんでこんなことやろうと思ったの？ 馬鹿なの？ ちなみにこれを書いているのは2日前の夜だったりします。何気にそろそろ寝ないといけない時間が迫ってきて焦りを覚えているわけですが、まあいいや。この本はつまりそういう大人と子供の恋愛に対する、あくまでもひとつの解答としての可能性であり、彼・彼女らに許された主張と正当性の一部を自分なりに描いたもので、許さなければいけない良いですが、悪いことは悪いことなので決してマネをしてはいけません。まだ比較的冒頭の方でも述べた通り、許されるのは当事者二人の気持ちが良いことが前提で且つ、罪を認めた上で「仕方なかった」と叫ぶことだけです。葛藤して苦しんだんだから別にいいじゃん！ というのは筋が通りません。そういうことではないのです。簡単に言えば人間の心として許されて、社会としては業深き罪である、ということですね。とはいえず、昔は12歳かそこらで結婚していたという話も聞きますし、今でも外国のどこかの国では少女が産座することなど当たり前のようなところがある、という話も……。あまりそのへん詳しくないので実際のところどうだか知りませんが、まあ我々は日本人ですし。もしかしたら海外在住の方がこの本を読んでいる可能性も、グローバル社会の進む昨今のオタク産業事情的には有り得るのかもしれませんが……。ところでそろそろ心が折れそうなのですが、続ければならないのでしょうか。そもそも誰得なんですか。このページを開いた読者の皆様は今頃ドン引きしておられるのではないのでしょうか。というか読んでおられるとは到底思えないのですが、書いて明らかなに日本語がおかしくなってきたのも自覚しつつ。フルバックのばんつについて話をしましょう。フルバックの良さはなんといっても、生地にもよるでしょうが、おしり側に出来る生地のたわみと酸だと思えます。空気感というか。ライブ感というか。おしりが柔らかい布に包まれている感も、触らなくても視覚でなんとなく伝わってきます。素晴らしいですね、フルバック。これで何かしらアニマル模様のプリントされたお子さまばんつだったりしたら、その酸とたわみによって形をゆがめたくまさんやらうさちゃんやらがより一層キュートに見えるわけです。何よりおんなのこのおしり自体がキュートなので、キュートさが増すと申しますか、キュートなものが今更キュートになることにより壮大なドラマを感じるというか、なんかもうすげえすげえですね！ ほんますけべやと思う。ばんつもおしりもすげえべや。最高にすげえべや。たまらん。たまらん。守りたくなくなるおしりってありますよね。ちっちゃいおしりもすげえべや。それよりも自分はおしりが好きなので、ここではおしりに特化した話をしたいと思います。おんなのこのおしりってどんだけおしりなんですかね。というかあの身体のどこからどこまでおしりなんですか。おしりと繋がっている以上、ふとももも腰もおしり、いやさ、全身がおしりだと言え換えてもいいのではないのでしょうか。いやでもやはりおしりはおしりであるべきなんです。唯一無二なるはおしり。おしり以外の部位がおしりであってはいけません。ちなみに自分はこんだけおしりおしり言ってますが、穴の方にはそれほど興味はありません。ばんつを脱がせたときに露わになる、その瞬間のみにて言え、多大な興味を抱いていると言っても過言ではありませんが、つまりは、何はなくともばんつが好きなんです。Tバックなどでおしりの良さが完璧に表現などできましようか。ばんつに包まれているからこそおしりはおしりなんです。そもそもにしてTバックというか、おしり側の生地が少なればばんつはいてたらおしりの肉が重なるんじゃないですか。なんでそんなことするんですか。おしりのこと嫌いなんですか。ほくは好きです。でもばんつはもーっと好きですよ！もしかしたらそんな自分にはおしりについて語る資格はないのかもしれませんが、自分でも分かるのです。おしりについてはものすごく浅い部分で語っていると。でも、よく考えてみてください。おしりに別に哲学でもなんでもないのです。さも哲学のように性癖について語るのが最近のエロチシズムの流れであるかのように思われていますけれども、好きなものを好きだと語っているだけです。それの一体何がいけないのでしょうか。ばんつもおしりも、等しく愛されてしかるべきなんです。ばんつはおしり、おしりはばんつなのです。その気持ちに優劣などあって良いのでしょうか。正直ここまで書いておいてなんですが、ぶっちゃけあっても良いと思います。性的に興奮を覚えられない部位や衣服は、やはり当然のごとく存在しますからね。上記でもももにしてTバックをディッしてましたし。自分の発言に矛盾があることは理解しているつもりです。でもそれでも、せっかく素晴らしい形のおしりなのに、それをフルバックばんつに包まれていない状態で見ること、もったいなささを感じてしまうのは人として仕方のないことなのです。より自分の理想的な形で見たいわけです。ばんつもおしりも。好きな女の子には自分好みの下着や衣類を身につけて欲しいではないですか。要はそれが好きな特定の女性外、街で擦れ違っただけの子に対して向けられていても、それはおとちやのこのことから仕方ないのです。ロマンなので。追いつめ続けなければならないものだから。だからといって通りすがりの女性のばんつやおしりを強引に見ることは犯罪なのでやめてはいけません。などと、そんな当たり前のことを書き殴り始めてしまう程度にネタがありません。ここまで読んでくださった皆様、いらっしゃったならば本当にありがとうございます。今、ページ全体を見返して思わず嘖き出してしまいました。もはや狂気しか感じません。文章の内容にかかわらず発禁を喰らってもいいレベルです。それでいてまだ埋まりきっていないことに愕然とします。ぶっちゃけ申しますと、最初は左右見開きで2Pに渡ってこれをやろうとしていました。12行目くらいまではそのつもりでした。そして無理だと判断しました。ここまでの文章ですら完全に破綻しているのに、一体何を書くことが出来るのでしょうか。そしてそんな言い訳をするぐらいならやらなければいいのに、というご意見もごもっとも。以前、確かトリ本だったかと同じようなことをしましたが、あのときはこれよりもフォントサイズ大きめだったのでなんとかなりましたが、さて、それではそろそろまとめに入ろうと思います。YESロリータNOタッチ、とは我々ロリコン系男子にとってのバイブルに刻まれた一文ですが、まさにその通りで、超えてはならないハードルを超えてしまう前に、まずは思いっきり葛藤に思い悩み苦しむその上で落ち着いて自分ではなく、相手の女の子のことを考えて、大事に、優しく、大切に気持ちを受け止め、大人としての態度で答えを見せつけてあげましょう、ということです。その答えがこの本に至ったものだとしても、「この気持ちだけは正しいものだった」と胸を張りながら罪を自覚し、社会からの罰と制裁を受け入れなければなりません。と、いう精神論的な解答の一部として、本書を皆様にお届けします。あとやっぱりばんつはフルバックに限る。これだけは譲れない。

11月某日 RYO



2012年 12月31日 発行

印刷会社 PICO様

発行：没後

著者：RYO

連絡先

<http://www.synapse.ne.jp/botugo/mayaul@vesta.dti.ne.jp>

本書の一部あるいは全部について
発行者の許諾を得ずに無断で複製・複写・インターネットへのアップロードを固く禁じます
乱丁・落丁本はお手数ですが、上記の連絡先までご連絡下さい